

施設だより愛の園

第29号
2021/7

新しいじぶが起いぬ

見よ。わたしは新しい事をする。今、もうそれが起ころうとしている。あなたがたは、それを知らないのか。確かにわたしは荒野に道を、荒地に川を設ける。

(イザヤ書 四十三章十九節)

社会福祉法人 ぶどうの枝福祉会

理事長 信川るり子



を受けて輝く木々や花は、私たちの心に癒しとエネルギーを注いでくれます。



この三月にぶどうの枝福祉会は創立三十周年（先駆けであるゆりか愛育園の誕生から四十七年）、特別養護老人ホーム愛の園は二十八年を迎えました。ぶどうの枝福祉会は、神様の祝福の中で一つ又ひとつと実を結び、施設は増えていき、七月一日に、地域密着型特別養護老人ホ

コロナ禍が社会にもたらした影響は計り知れず、先行きの見えない不安を抱えながら一年半が過ぎました。人の混乱をよそに、季節は変わらず巡り、初夏の光

ーム「愛の園シオンの丘」が開園します。これまで愛の園を愛し、支えて下さった皆様に心より感謝申し上げます。



大きな変化が求められているこの時代の流れの中で、私たちがこれから歩む道は、細く険しく、道なきところを行くことになるかもしれません。けれども、冒頭のイザヤ書の御言葉にあるように、神様は荒野に道を設け、荒地地に川を流してくださいと信じ、歩んでいきたいと思えます。



さて、人は生まれてから天に召されるまで、与えられたときを精一杯生きます。しかし、その歩みはいつも平穏なときばかりではありません。様々なときを経験します。嬉しい喜び溢れるときもあれば、苦難の連続、悲しみの長いトンネルの中で光を求めて、叫びたくなることもあるでしょう。そのようなときには、誰かの支えが必要です。ぶどうの枝福祉会は、「自分を愛するようにあなたの隣人を愛せよ」の聖書の御言葉を理念とし、人生の最初の数年と締めくくりにその尊いときに、皆様のお手伝いができればと願っています。その人らしく命輝かせて生きるために、ご利用者お一人一人に寄り添い、ご家族と共に喜び、苦勞を分かち合い、手を取り合って歩んで行きたいと思えます。



希望の光をお届けするために、職員一同心を尽くしていきたいと願っております。今後とも皆様のお祈りとご支援を宜しく願います。

主が建てる

主が家を建てるのでなければ、
建てる者の働きはむなしい。
(詩篇 一二七篇一節)

社会福祉法人 ぶどうの枝福祉社会
愛の園 統括園長 信川恒夫



一昨年の十二月に愛の園既存棟の改修工事と新築工事がスタートしました。

新築棟は地盤改良工事から始まり、基礎工事、鉄骨組み立て、外壁、設備、内装工事と順調に進み、二月末に無事竣工を迎えました。その間、既存棟では共用部の内装工事や、電気・ガス・給排水

設備の更新を行いました。新築棟の竣工を待つ、二十名の入居者の方々に引っ越しをお願いし、既存棟の居室部分の改修が始まりました。

改修工事を進める中で、排水管の詰りや水道管の漏れ等が次々と見つかり、設計事務所や工務店の方々と現地確認をしながら改修が進められました。限られたスペースでのトイレ改修では、介護職員が介助方法の意見を出し合った結果、とても使いやすいトイレが完成しました。私は、職員の介護力と提案力の高さに驚きました。

これと併行して、開設準備室の職員が中心となって、お仕事説明会を毎月開催し、ホームページの更新や入居者募集等多くの業務も率先して行ってくださいました。このように本当に沢山の人の丘開設を無事迎えることが出来ました。心から感謝申し上げます。

地域密着型特別養護老人ホーム

「愛の園シオンの丘」7月1日に開園



各種設備工事が順調に進んでいます。(12月18日)



屋内工事も佳境に入ってきました。(10月6日)



地中梁の工事が終わればよいよ地上部の工事です。(6月10日)



地盤改良工事が進んでいます。(令和2年4月15日)



愛の園シオンの丘が無事竣工しました。(令和3年2月8日)



各階の床のコンクリート工事は表面均しが大変です。(9月7日)



梅雨の天気を気にしながら、鉄骨の工が進みます。(7月10日)



同時に進められた「愛の園既存棟」の改修工事

愛の園の改修工事は手探りで進められました。(令和2年3月5日)



既存棟に感染症対策として陰圧装置を設置しました。(3月30日)

プライバシーと機能性を考えた結果このようになりました。



入居者の皆さんの協力があったからこそ工事が進められました。ありがとうございます(6月8日)

愛の園2階のホールも使いやすくなりました。(令和2年10月20日)



山脇 裕史(生活相談員)



私はシヨートステイの生活相談員を十年程経験しました。この度は入居施設という事で、似ているようで、看取り期間までみさせていただく場所になりますので、責任重大だなど思いながら開設準備に取り組みました。法人理念の「自分を愛するよううに、あなたの隣人を愛しなさい」を實踐できるように仲間と一緒に頑張りたいと思います。

高取 幸吉(ユニットリーダー)



愛の園に入職後はディサービスや既存の特養スタッフを経験しました。この度シオンの丘の立ち上げメンバーとして関わりをもたせて頂きました。これまで以上に介護の仕事を見つめながら、入居者と一緒に過ごせる空間作りを模索していきたいと思っています。試行錯誤もありますが、コンセプトは「住み慣れた自宅の継続」と思っています。

谷口 祐子(管理栄養士)



昨年末、厨房の改修工事が終わり、明るく綺麗になった厨房より愛の園のお食事を毎日提供しています。私は入居者様の生活の中で「食事を楽しむ」ことが大切だと考えています。日々の献立には季節を感じる食材を取り入れ、行事に合わせたお食事も提供しています。7月にはシオンの丘がオープンします。新たな出会いに感謝し、心地よい生活をして頂けるように、厨房職員も食事の面からサポートをして行きたいと思っています。

田中 一実(介護職員)



当初はパート職員での勤務でしたが、今年度より正職員に登用していただき、ますます仕事を頑張りたいと思っています。七月にはいよいよシオンの丘がオープンします。家庭や子育てもしながらにはありますが、主婦の経験を活かしながらご入居者と共に過ごし、暮らしが穏やかで充実したものになる場所作りを目指していきたいです。

大西 美緒(理学療法士)



私は今回理学療法士の立場から、入居の皆さまの日々使われる家具や福祉用具の選定、施設環境の設定について、仲間たちとともに熱心に検討を進めてきました。また、広報にも携わり、いよいよオープンする「愛の園シオンの丘」と「愛の園」の築いてきた伝統と信頼をPRする活動も行ってきました。私たちは今までもこれからも、ご入居の皆さまお一人ひとりを大切にお迎えし、日々のケアにあたっていきます。そして、より良い安心の暮らしが実現出来ますよう、研鑽を重ねてまいります。

